



芳野山実景図屏風（松阪市所蔵、殿町 久留家寄贈）

吉野山の桜は「古今和歌集」以来和歌に詠まれ、龍田川の紅葉とならび、代表的な春の画題の一つとして描き続けられてきました。本図は桜の名所 吉野山の春を描いたもので、右隻の桜木神社・吉野水分神社・安禅寺から左隻の金峯山寺へと桜の華やかな情景に参詣人や花見客が点在し、のどかでおおらかな作品となっています。箱書には、「住吉古法眼筆」とありますが、筆使いから江戸時代前期の江戸狩野派の絵師によると考えられています。

この屏風は、私立松阪病院開設者 久留春三(品山)が大正10年(1921)に京都で買い求めたものです。春三は漢学・書道・詩に通じ、また雨龍閣文庫を創設して多くの書籍を収集しました。

旧長谷川治郎兵衛家では、企画展示「長谷川家の春」

(令和3年3月17日～6月13日)でこの屏風を展示し、原田二郎旧宅では企画展示「松阪の偉人 医学博士久留春三」(令和3年4月21日～8月15日)で久留春三の資料を展示しますので、ぜひご来館ください。



吉野水分神社

今回の展示はここがみどころ!

◆長谷川家の春

旧長谷川治郎兵衛家

令和3年3月17日(水)~6月13日(日)

長谷川家の春の主な行事として、3月13日に行われる創業の祖政幸(宗印居士)の法要、4月15日に行われる講参宮などが挙げられます。春の陽気の中、梅や桜などの花の香に包まれ、華やかに執り行われたことでしょう。長谷川家には、春を感じさせる絵画や陶磁器などの美術工芸品が数多く残っています。本展では、長谷川家の春の行事に関する生活道具や文書類、桜を描いた絵画や花をモチーフにした陶磁器・漆器などの春に関連した資料をご紹介します。庭園の春の花々や若葉とともに、長谷川家の春を満喫していただければ幸いです。



山鳥図果物盛

◆商家の広告

旧小津清左衛門家

令和3年4月7日(水)~7月11日(日)

現在、世間にはチラシ・ポスター・テレビ・インターネットなどのあらゆる媒体を通して、人々の関心を惹く広告があふれています。江戸時代においても、商人たちは商売繁盛のため、あの手この手で広告を行ないました。商店の軒先に看板や暖簾を掛けて商いの目印にしたり、現在のチラシや折込折り込み広告・手配りピラにあたる引き札を配るなどの方法で、商店や商品の宣伝を行ないました。本展では、江戸から昭和の松阪に関連する看板や引き札などの資料を通して商家の「広告」をご紹介します。



三井越後屋 大阪高麗橋店引き札

◆松阪の偉人 医学博士 久留春三

原田二郎旧宅

令和3年4月21日(水)~8月15日(日)

原田二郎旧宅が残る松阪市殿町には、大正頃より医学博士の久留春三(号：品山)が住んでいました。久留家はもともと山田の町(現：伊勢市)にあった久留山威勝寺の住職の家系でしたが、寺は明治初期に廃寺となります。最後の住職雲峯の孫にあたる春三は医師となり、大正2年(1913)、殿町の雨龍神社跡に私立松阪病院を開設し、一家も殿町に移り住みます。彼は漢学や書画にも造詣が深く、また、書画・骨董などの収集家でもあり、そのコレクションは雨龍閣文庫と称しました。本展では、彼の遺品・遺作やコレクションなどを通して、松阪の偉人久留春三を紹介します。



久留春三

◆『小津安二郎映画看板展』

松阪市立歴史民俗資料館リニューアルオープン応援企画!

原田二郎旧宅

令和3年4月3日(土)~5月9日(日)

4月3日 松阪市立歴史民俗資料館2階が「小津安二郎松阪記念館」としてリニューアルオープンするにあたり、同じ殿町の原田二郎旧宅でも小津の映画看板を展示します。

また期間中、映画看板制作者の紀平昌伸氏による映画看板制作の技法・デッサン講座の日をもうけました。この機会にプロによる本格的な技法を楽しく学んでみませんか。

◆デッサン講座

日時 令和3年5月4日(祝・火) 10:00~12:00

場所 原田二郎旧宅

対象者 小学生以上10名 定員になり次第締め切ります

参加料 無料

お問い合わせは原田旧宅 (Phone. 0598-23-1656) まで



松阪市立歴史民俗資料館

松阪市立歴史民俗資料館は、明治45年(1912)に飯南郡図書館として開館し、その後、昭和53年(1978)に「歴史民俗資料館」として、現在に至っています。本館は国登録有形文化財。月曜休館

所在 松阪市殿町1539(松阪公園内) Phone. 0598-23-2381

※ 車でお越しの方は、松阪市駐車場(無料)をご利用ください。



貴方もワタ(綿)を育ててみませんか!

◆ NPO法人松阪歴史文化舎では、松阪歴史文化施設の管理を開始して3年目を迎えた記念として、旧長谷川治郎兵衛家の庭で育てた綿の種を来訪者の皆さんに配布いたします。

・配布期間 令和3年4月1日(木)~

※なくなり次第終了します。

・配布場所：旧長谷川治郎兵衛家
旧小津清左衛門家
原田二郎旧宅



●小津安二郎と松阪



映画監督小津安二郎(1903~63)は低いカメラアングルによる厳格な形式美の中に真の人間性を独特の手法で描き、「生まれてはみたけれど」・「晩春」・「東京物語」など、日本映画史上にさん然と輝く名作を残しました。そんな日本を代表する映画監督の安二郎は、青年期の一時期を松阪で過ごしました。

明治36年、安二郎は東京深川の肥料問屋「湯浅屋」東京支配人を勤めた小津寅之助の次男に生まれました。松阪屈指の豪商小津清左衛門家の別家である湯浅屋・小津与右衛門家(新兵衛家)の本宅は百足町(松阪市西之庄町)にあり、父寅之助の実家小津新七家はその分家にあたります。このような松阪との縁もあって、大正2年(1913)、安二郎が10歳の時に一家で松阪(愛宕町)へ移り住み、町立第二尋常小学校4年に転入します。

その後、旧制宇治山田中学校を卒業し、飯高町の宮前尋常高等小学校の代用教員となり、大正12年(1923)、20歳で父の住む東京に帰るまでの10年間を松阪で過ごしました。また、この頃から映画好きだったようで、安二郎の日記のなかには、当時、愛宕町にあった映画館「神楽座」へ映画を観に行ったことが窺える記述が見受けられます。後に、シナリオ作家の野田高梧氏と共に松阪を訪れた際、「神楽座」の前で、「もし、この小屋が無かったら、僕は映画監督になってなかったと思うんですよ」と述懐しています。

なお、松阪市では安二郎生誕100年を迎えた平成14年から令和2年まで、安二郎が青春時代を過ごした地に建て



かぐら座 (昭和初期)

られた民家を借りて「小津安二郎青春館」がオープンしていました。この青春館の閉館後、新たに本年4月、松阪市立歴史民俗資料館(殿町)の2階に「小津安二郎松阪記念館」が開館しました。



愛宕町にあった「小津安二郎青春館」
(令和2年12月閉館)

旧長谷川家、旧小津家、原田旧宅3施設のご案内

【開館時間】 9:00~17:00
(16:30までにご入館ください)
休館日/月曜日(祝日の場合は翌日)・年末

【連絡先】
旧長谷川治郎兵衛家
Phone: 0598-21-8600
旧小津清左衛門家
Phone: 0598-21-4331
原田二郎旧宅
Phone: 0598-23-1656



発行 NPO法人松阪歴史文化舎

〒515-0082 三重県松阪市魚町1653

Phone: 0598-21-8600

E-mail info@rekishibunkasha.onmicrosoft.com

